

第6学年1組 学級活動（保健）指導案

平成29年10月10日（火）5時間目

会場 3階6年1組教室

授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校

養護教諭 長谷川由紀（MT）

教諭 志田 倫明（ST）

1 題材名 どう使う?! ネット上のやり取り -コミュニケーションを考えよう-

2 本題材の価値

本題材は、学習指導要領特別活動の学級活動共通事項（2）カを受けて設定した。

【学習指導要領特別活動 学級活動】

2) 日常生活や学習への適応及び健康安全

カ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成

思春期の子どもは、仲間との親密な関係の中で人との関係づくりについて学ぶ時期にある。スマートフォンやタブレット端末、通信可能なゲーム機などのデバイスの普及と、SNSやメッセージングアプリの広がり、人間関係を調整する力が未熟な思春期の子どもに大きな影響を与えている。特にLINEなどのメッセージングアプリは、リアルタイムのやり取りができ、実際に会話しているような感覚で手軽に利用できる。しかし、ネット上のやり取りは、互いに顔の見えない中でのやり取りであるため、相手の気持ちや会話の内容を正確に理解することが難しい。そのため、誤解が生じやすいという特性があり、様々なトラブルにつながりやすい。ネット上のやり取りの些細な誤解から、いじめにつながったり、相手の反応を気にするあまりデバイスを手放すことができなくなるというネット依存に陥ったりする。ネット依存に陥ると、生活習慣に影響が出やすいため、心身の健康に不調を訴えたり、不登校やひきこもりにつながったりする。また、SNSやメッセージングアプリが出会い系サイトとして悪用されている事実もあり、警戒心をもたない子どもが、犯罪に巻き込まれるケースも増えている¹。使い方によっては、ネット上のやり取りは子どもの心身の健康を脅かすトラブルにつながりやすい。子どもに、ネット上のやり取りの特性を気付かせた上で、「自分ならどう使うか」と自分事として考えさせることがトラブル予防には欠かせない。

当校6年生の97%は、家庭で自由にインターネットにアクセス可能なデバイス（タブレット端末、通信可能なゲーム機、PC等）を所持しており、日常的にインターネットを利用している。主に、動画閲覧、情報検索、ゲーム等のために利用している。当校では、今年度よりBYOD（Bring your own device）を導入した。各家庭でタブレット端末を個人購入し、学習のために学校で活用するという取組である。「学習のためにのみ活用する」という原則のもと、ガイドラインでは、SNSやメッセージングアプリのインストールを禁止し、子ども同士のネット上のやり取りを制限している。しかし、中学校進学後は、当校のガイドラインから外れ、自由にタブレット端末を利用できるようになる。そして自分のスマートフォンを所持する子どもも増える。附属新潟中学校においては、全校生徒の64%が携帯電話・スマートフォンを所持しており、そのうち44%の子どもがLINEの利用経験がある。高校生の95%がLINEを利用しているという全国調査の結果からも、発達段階が上がるにつれ、ネット上のやり取りを利用する子どもが増えることが分かる。今後、当校6年生もネット上のやり取りを利用する子どもが増えることが予想される。

当校では、情報モラル指導を適宜行っているため、子どもはインターネット利用に関するルールを知っている。しかし、なぜルールがあるのかという理由まで理解している子どもは少ない。既にSNSやメッセージングアプリを利用している子どももいるが、多くはない。関心はあるものの、ガイドラインや家庭でのルールで守られているために利用経験が少ない子どもが多い。大人の目の届く範囲内でインターネットを利用している子どもは、守られているがゆえにネット上のトラブルに対しての危機感が低い。しかし、半年後には現在よりも自由にインターネットを利用し始めることを考えると、6年生の今、利用ルールで子どもを守るだけでなく、ネット上のやり取りの特性に気付かせ、子どもにトラブルを回避し適切に使うためにはどうすればよいかを考えさせることが重要である。

本指導ではネット上のやり取りでのトラブル事例を提示し、登場人物両者の言動の理由を考えさせる。事例を基に考えさせることで、ネット上のやり取りで起こる行き違いを疑似体験させネット上のやり取りの特性に気付かせる。そして、適切な使い方を考えさせる。本指導を行うことは、現在のネット上のやり取りのトラブルを防ぐだけでなく、今後利用する際のトラブル予防にもつながる。これが本題材の価値である。

3 本題材で目指す姿

ネット上のやり取りの特性を理解し、適切な使い方を考える子ども

具体的には、「ネット上のやり取りは相手の表情や声が分からないので誤解しやすい。相手の気持ちを考えてメッセージを送りたい」「誤解のない表現をしたい」「絵文字を使って、自分の気持ちが伝わるように工夫したい」などと、ネット上のやり取りの特性を理解し、適切な使い方を考える子ども。

*1 樋口進（2013）「ネット依存症から子どもを救う本」

4 本題材で育成する資質・能力

	①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③態度
学級保健活動指導	○ネット上のやり取りの特性に関する知識	○適切なネット上のやり取りの使い方を考え自己決定をする力	○適切なコミュニケーション方法を選択し、よりよい人間関係を築こうとする力

5 指導計画 全1時間（3Q）

6 指導の構想

75%の子どもはメールやSNS、ゲーム内のチャットなど、ネット上のやり取りの利用経験がある。ネット上のやり取りからトラブルに発展した子どもは少ない

働き掛け1

ネットいじめ件数の推移グラフを提示し、トラブル予防のために今後もネット上のやり取りを利用しないことがよいのかを問う。

問いをもたせるための働き掛けである。

まず、SNSやメールなどネット上のやり取りのよさを問う。子どもは、「便利」「手軽」などとよさを挙げる。次に、ネットいじめの件数グラフ^{*2}を提示する。すると子どもは、トラブルが多い事実から、「こんなにネットいじめにあっている」「やっぱりネット上のやり取りは危険なのかも」と、ネット上のやり取りに不安を感じ始める。そこで、これからも利用しない方がよいのかを問う。子どもは、「ネット上のやり取りの使い方の問題だ」「どんな使い方をすればよいのだろう」と考え始める。ネット上のやり取りの使い方に着目し、どのように利用すればよいのかを考えている子どもを問いをもった状態とする。

働き掛け2

ネット上のやり取りでのトラブル事例を提示し、登場人物がとった言動の理由を問う。

ネット上のやり取りの特性に気付かせるための働き掛けである。

SNSでのトラブル事例を提示する。登場人物は二人で、投稿した内容に対しての相手の返信が、自分を馬鹿にしているかのようにとらえ、現実の人間関係トラブルにつながったという事例である。子どもは、なぜトラブルになってしまったのか疑問をもち、原因を予想し始める。そして、なぜ、Aさんは無視したのか、なぜBさんは『え、どこが？』と送ったのかと、それぞれの登場人物がとった言動の理由を問う。すると、「Aさんは、Bさんの返信で、馬鹿にされたと思った」「Bさんは、本当にどこが分からなかったかを聞いたかただけなのかもしれないと思う」と、言動の理由を考える。子どもの予想した両者の気持ちを整理して板書する。子どもは両者の間に行き違いがあることに気付く。

働き掛け3

「コミュニケーションにおける言葉の割合」のグラフを提示し、ネット上のやり取りをするとき、気を付けていきたいことを問う。

適切なネット上のやり取りの使い方を考えさせる働き掛けである。

事例を通して、トラブルの原因は両者の誤解であることに気付いた子どもに、「コミュニケーションにおける言葉の割合」のグラフ^{*3}を提示し養護教諭が説明をする。子どもは、ネット上のやり取りで誤解が起こる原因について根拠をもって理解する。最後に、分かったことを基にこれからネット上のやり取りを利用する際に気を付けていきたいことを問う。子どもは、「ネット上のやり取りは相手の表情や声が分からないので誤解しやすい。相手の気持ちを考えてメッセージを送りたい」「誤解のない表現をしたい」「絵文字を使って、自分の気持ちが伝わるように工夫したい」などと、ネット上のやり取りの特性を理解した上での適切な使い方を考える。

*2 文部科学省（2016）「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

*3 Albert Mehrabian（1936）「Silent messages」

(1) 本時のねらい (全1時間)

- ・ネット上のやり取りは、誤解や行き違いをしやすいという特性があることに気付く(知識)。
- ・ネット上のやり取りを使う際は、どのように使えばよいかを考える(思考・判断・表現)。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿	教師の働き掛け
<p>1 ネット上のやり取りから、ネットいじめなどのトラブルにならないためにはどうすればよいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none">・便利。・簡単に連絡ができる。・気軽にやりとりできる。 <p>・こんなにネットいじめに遭っている人がいるんだ。</p> <ul style="list-style-type: none">・ネット上のやり取りは危険だ。・本当にトラブルなんて起こるのかな。・使ったことが無いからよく分からないな。 <p>・使わないのが一番だけど、どう使うかも大事だよ。</p> <ul style="list-style-type: none">・使い方の問題なんじゃないかな。	<p>○ST発問「ネット上のやり取りの良さはどんなところですか」</p> <p>※ネット上のやり取り…メール、LINE、Twitter、Instagram、mixi、メッセージ、ゲーム機のチャット機能、ロイロノートでのやり取りなど。子どもの経験を想起させる。</p> <p>※有効に活用すれば、学習にも活用できる、便利な一面があることを確認する。</p> <p>OMT指示「このグラフを見てください。ネットいじめの件数のグラフです。」</p> <p>※ネットいじめの件数グラフ 【働き掛け1-①】</p> <p>OST発問「ネットいじめがこんなに起こっています。これからもネット上のやり取りを使わない方がよいのでしょうか」</p> <p>【働き掛け1-②】</p> <p>○子どものつぶやきから学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">トラブルにならない、ネット上のやり取りの使い方とは？</div>
<p>2 ネット上のやり取りでのトラブル事例を提示し、登場人物がとった言動の理由を考える。</p> <p>【なぜAさんはBさんを無視したか】</p> <ul style="list-style-type: none">・Bさんに「どこが？」と返されて、バカにされたと思って怒ったから。・Aさんは分からなくて困っていたのに、Bさんに「え、何で？」と軽く返されて悲しかった。・Bさんに分かってもらえないと思ってムカついたから。・『だろ』で、さらにムカついた。 <p>【なぜBさんは『え、何で？どこが』『だろ』というメッセージを送ったのか】</p> <ul style="list-style-type: none">・どういうところが難しかったのか質問したかった。・バカにしたり、傷つけようとはしていない。・Aさんに褒められたと思って『だろ』を返した。	<p>○MT指示「ネット上のやり取りで起こったトラブルを紹介します。テレビを見ましょう。」</p> <p>※MTはPowerPointを使って事例を提示する。二人のやり取り部分は読み上げない。</p> <p>OMT発問「このメッセージのやり取りのあと、なぜ、AさんはBさんを無視するよな態度をとったのでしょうか」</p> <p>【働き掛け2-①】</p> <p>※補助発問「Bさんのどのメッセージでそう思ったのですか」</p> <p>※補助発問「Bさんのメッセージを見て、Aさんはどんな気持ちになったと思いますか」</p> <p>○MT指示「では、Bさんの立場になってみましょう。テレビを見ましょう」</p> <p>※Bさんの内言が入った事例を提示する。</p> <p>OMT発問「Bさんは、どんな気持ちで『え、何で？どこが』と返信したのでしょうか」</p> <p>【働き掛け2-②】</p> <p>※補助発問「Bさんには悪意があったと思いますか」</p> <p>※事例を提示する前の予想と違う予想をしていることをおさえる。</p>
<p>3 これからネット上のやり取りをするときが来たら、どんな使い方をしていくのがよいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none">・Aさんが勘違いしている。・BさんがAさんのことを考えてないから。・ネットだと相手の表情が分からないから、きちんと伝わっていない。・絵文字がないから気持ちが伝わらない。・字だけだと、気持ちが伝わらないから。	<p>○ST発問「二人はネット上でメッセージのやり取りをしていたけど、なぜこんな行き違いが起こったのでしょうか。」</p>

- ・ ネット上のやり取りだと7%分の手がかりしかないんだね。
- ・ 相手の顔とか声のトーンかな。
- ・ その人が勝手に相手の気持ちを想像するからトラブルになっちゃうのかも。
- ・ 絵文字が入ると分かりやすくなるよね

- ・ Bさんの気持ちがより伝わるから、怒りはしなかった。
- ・ Bさんが勘違いしていることに気づいて、もっとしっかり伝えようと思った。
- ・ 絵文字ひとつで、感じ方が違うな。

- ・ ネット上のやり取りは相手の表情や声から分からないので誤解しやすい。
- ・ ちょっとした誤解からトラブルにつながりやすいから、注意して使うことが大切だ。

- ・ 相手の気持ちを考えてメッセージを送りたい。
- ・ 誤解のない表現をしたい。
- ・ 絵文字を使って、自分の気持ちが相手に伝わるように工夫したい。
- ・ 相手の気持ちを考えて伝えたい。
- ・ どうとらえるかわかりづらいメッセージのときは、思い込みや想像をせずに相手に確認したい。

○MT説明「このグラフを見てください。私たちは、コミュニケーションをとるとき、三つのことを手がかりにしています。文や話の内容は7%。ネット上のやり取りは、わずか7%だけを手がかりにコミュニケーションをとっていることになります。では、あとの93%はどんなことが入るでしょう。表情や動作、声が入ります。ネット上のやり取りは、表情や声はありません。思い込みや想像力で補っています。」

※「コミュニケーションにおける言葉の割合」グラフを提示する。

【働き掛け3-①】

○MT発問「もし、Bさんがこのメッセージを送っていたら、Aさんはどう思ったでしょうか」

※Bさんのメッセージに絵文字を入れた事例を提示する。

○ST発問「今日の授業で分かったことはどんなことですか」

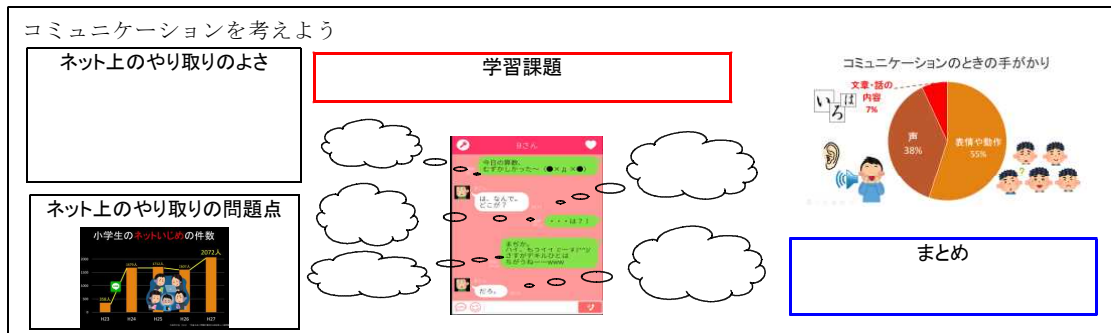
※子どもの発言をもとに、課題に対するまとめをつくる。

○ST指示「ネット上のやり取りを使うとき、気を付けたいことはなんですか。ワークシートに記入しましょう」

【働き掛け3-②】

※ワークシートを配付

(3) 板書計画



(4) 評価

- ・ 「ネット上のやり取りは相手の表情や声が伝わらないので誤解しやすい」などと、ネット上のやり取りの特性を理解しているかをワークシートの記述で判断する。(知識・理解)
- ・ 「相手の気持ちを考えて伝える」や「絵文字を使って自分の気持ちが伝わるように工夫したい」など、ネット上のやり取りの特性を理解した上で、トラブルを防ぐための使い方を考えているか、ワークシートの記述で判断する。(思考・判断)